

34. パセリ

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	-	-	野菜類(キャベツを除く)
7	アフエットフロアブル	散布	収穫3日前まで	2回以内	
M2	イオウフロアブル	散布	発病前～発病初期 ^{注4}	-	野菜類(すいか、かぼちゃ、トマト、ミニトマト、ねぎ、わけぎ、あさつき、いちごを除く)
-	エコピタ液剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)
NC	カリグリーン	散布	収穫前日まで	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
M1*	キノンドー粒剤	土壌表面散布	は種前	1回	パセリ(露地栽培)
			生育期(但し、収穫90日前まで)	1回	
BM2+M1	クリーンカップ	散布	収穫前日まで	-	野菜類
-	(クロルピクリン) クロピク80	土壌くん蒸	-	1回	せり科野菜類(セルリーを除く)
	ドロクロール クロールピクリン	土壌くん蒸	-	1回	
-	サンクリスタル乳剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なすを除く)
3	スコア顆粒水和剤	散布	収穫3日前まで	2回以内	
31	スターナ水和剤	散布	収穫14日前まで	2回以内	
-	バイオキパー水和剤	散布	発病前～発病初期	-	野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)
1	ベンレート水和剤	灌注	収穫45日前まで	2回以内	

・殺菌剤(参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
BM2	アグロケア水和剤	散布	収穫前日まで	-	
11	アミスター20フロアブル	散布	収穫45日前まで	1回	
BM2	エコショット	散布	収穫前日まで	-	
M1	(銅水和剤) コサイド3000	散布	-	-	野菜類
	ドイツボルドーA	散布	-	-	野菜類
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なすを除く)
11	ストロビーフロアブル	散布	収穫14日前まで	1回	
3	トリフミン水和剤	散布	収穫30日前まで	1回	
NC	ハーモメイト水溶剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類
11+4	ユニフォーム粒剤	株元散布	収穫21日前まで	3回以内	
M1*	ヨネボン	散布	収穫14日前まで	3回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アドマイヤー1粒剤	植穴土壌混和	定植時	1回	
-	オレート液剤	散布	発生初期～収穫前日まで	-	野菜類(いちごを除く)
11	ゼンターリ顆粒水和剤	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類(はくさいを除く)

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	デルフィン顆粒水和剤	散布	発生初期（但し、 収穫前日まで）	-	野菜類
1	ランネート45DF	散布	収穫30日前まで	1回	
-	粘着くん液剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類
-	粒状石灰窒素	土壌混和	は種前又は植付 前	1回	野菜類

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫3日前まで	1回	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 登録会社により使用時期が異なるので、登録内容を確認して使用する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
立 枯 病 (F)	定 植 前	1. クロルピクリン剤で土壌消毒する（土壌消毒の項参照）。	1. 処理前の土壌は、作物根・残渣等をできるだけ取り除くか十分腐熟させておく。 2. 苗床の汚染に注意する。
	生 育 期 間	1. ベンレート水和剤 1,000 倍液を 1㎡に 3ℓ 灌注する。	1. 苗床及び定植後 1 か月位までの発病に対するスポット的処理剤として利用する。 2. 多発ほ場では、本剤のみによる防除は困難であるので、定植前のクロルピクリンによる土壌消毒と組み合わせる。
疫 病 (F)	生 育 期 間	[参考農薬] 1. ユニフォーム粒剤を 10 a 当り 12kg 株元散布する。	1. ほ場の排水を図る。
うどんこ病 (F)	生 育 期 間	1. エコピタ液剤 100 倍液、サンクリスタル乳剤 300 倍液、イオウフロアブル 500 倍液、カリグリーン 800 倍液、ジーファイン水和剤 1,000 倍液、クリーンカップ 1,000～2,000 倍液、アフエットフロアブル、スコア顆粒水和剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. ヨネポン 700 倍液、ハーモメイト水溶剤 800～1,000 倍液、アミスター 20フロアブル 2,000 倍液、ストロビーフロアブル 3,000 倍液、トリフミン水和剤 8,000 倍液のいずれかを散布する。 2. アグロケア水和剤 1,000～2,000 倍液を散布する。	1. カリグリーンは発生初期に 5～6 日間隔で連続散布する。 2. 葉裏にも十分かかるように散布する。 3. ジーファインは高温多湿時に散布すると銅による薬害の恐れがあるので注意する。 4. QoI 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。 5. アグロケア水和剤は、生物農薬である（「56. 野菜類の総括注意」参照）。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
斑 点 病 (F)	生 育 期 間	[参考農薬] 1. エコショット 2,000 倍液を散布する。	1. エコショットは生物農薬である(「56. 野菜類の総括注意」参照)。
軟 腐 病 (B)	は 種 前	1. キノンドー粒剤を 10a 当り 20kg 土壌表面散布する。	1. キノンドー粒剤の使用は、露地栽培に限る。 2. ジーファイン、銅水和剤、バイオキパーの芽かき後及び収穫後の散布は予防効果が高い。
	生 育 期 間	1. キノンドー粒剤を 10a 当り 20kg 土壌表面散布する(但し、収穫 90 日前まで)。 2. Z ボルドー 800 倍液、又はスターナ水和剤 2,000 倍液を予防散布する。 3. バイオキパー水和剤 1,000～2,000 倍液を予防散布する。 [参考農薬] 1. ドイツボルドー A の 500～1,000 倍液、ジーファイン水和剤 1,000 倍液、コサイド 3000 の 2,000 倍液のいずれかを予防散布する。	3. ジーファインは高温多湿時に散布すると銅による葉害の恐れがあるので注意する。 4. 銅水和剤は高温条件下、連続散布で葉害が発生する恐れがある。炭酸カルシウム水和剤(クレフノン) 100～200 倍液を加用すると、葉害を軽減することができる。 5. バイオキパーは生物農薬である(「56. 野菜類の総括注意」参照)。
アブラムシ類	定 植 時	1. アドマイヤー 1 粒剤を 1 株当り 0.5 g 植穴土壌混和する。	
	生 育 期 間	1. ランネート 4 5 D F の 2,000 倍液を散布する。 2. オレート液剤、又は粘着くん液剤の 100 倍液を 1 週間間隔で 2 回散布する。 [参考農薬] 1. モスピラン顆粒水溶剤 8,000 倍液を散布する。	1. ランネートは吸入毒性が強いので、散布するときは必ずマスクを着用する他、風向きなどに注意し、噴霧を吸入しない。ハウス内、噴霧のこもりやすい場所では使用しない。 2. ランネートの使用時期は収穫 30 日前までであるため、特に注意する。 3. オレート及び粘着くんは昆虫の気門を塞ぎ窒息させて殺虫するので、虫体に直接かかるよう寄生部を中心に十分量を散布する。 4. モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
ハスモン ヨトウ	生 育 期 間	1. ゼンターリ顆粒水和剤、又はデルフィン顆粒水和剤の 1,000 倍液を散布する。	1. B T 生菌剤(ゼンターリ、デルフィン)は蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
ネコブ センチュウ	は種前又は 植 付 前	1. 粒状石灰窒素を 10a 当り 50～100kg 散布し、土壌混和する。	1. 葉害回避のため、処理後は、は種や定植まで、冬季で 7～10 日、夏季で 3～5 日空ける。